

革新が ん治療 国内着々

重粒子線治療が受けられる施設、ボウ素中性子捕捉療法(BNCT)の設備の導入が国内で広がっている。一部のがん治療で保険適用が認められており、がん患者からのニーズが高まっている。海外がんと患者からの問い合わせも増えている。(一面参照)

重粒子線施設は国内に7カ所ある。山形大学(山形市)、群馬大学(前橋市)、量子科学技術研究開発機構(千葉市)、大阪重粒子線センター(大阪市)、神奈川県立がんセンター(横浜市)、兵庫県立粒子線医療センター(兵庫県たつの市)、九州国際重粒子線がん治療センター(佐賀県鳥栖市)だ。

ただ重粒子線治療で保険適用となるのは骨軟部腫瘍、頭頸部(とくけいぶ)がん、前立腺がん、肝臓がん、膵臓(すいぞう)がん、直腸がん、子宮頸がんの一部。それ以外は「先進医療」扱いで300万円前後の自己負担が必要とされる。外国人患者の場合は、日本の医療保険が使えないため、

施設や設備の導入広がる

最先端治療を受けられる施設が全国で増えている

都道府県	施設名	治療法
山形県	山形大学医学部東日本重粒子センター	重粒子線
群馬県	群馬大学医学部付属病院 重粒子線医学研究センター	
千葉県	量子科学技術研究開発機構QST病院	
神奈川県	神奈川県立がんセンター	
大阪府	大阪重粒子線センター	
兵庫県	兵庫県立粒子線医療センター	
佐賀県	九州国際重粒子線がん治療センター	
福島県	南東北BNCT研究センター	BNCT
大阪府	大阪医科薬科大学関西BNCT共同医療センター	

治療費用で400万円超。さらに旅費、宿泊費も含めると1000万円近い費用が発生するが「中国、インドなどアジアの富裕層を中心に治療を希望する問い合わせが増えている」(国内の重粒子線施設の運営者)という。

すでに設備を導入し臨床試験中の国立がん研究センター中央病院(東京・中央)のほか、筑波大学(茨城県つくば

市)、岡山大学(岡山市)、京都府立医科大学(京都市)、湘南鎌倉総合病院(神奈川県鎌倉市)、江戸川病院BNCT(東京・江戸川)など全国でも導入計画が進む。

BNCTは複数のがん治療に効果が見込まれる研究成果が出ているが、現時点で保険が認められるのは頭頸部がん治療のみだ。脳腫瘍や皮膚がんなどの研究も進むが、頭頸部がん以外では現時点では高額な自己負担が必要となる。現在は「日本人患者を優先しているが、海外からの問い合わせは多く、人員を増やす体制がとれば対応したい」(国内病院)という。

海外からも問い合わせ増

光免疫療法は米国立衛生研究所(NIH)に所属する小林久隆氏が考案した基礎技術の実用化を薬大グループの三木谷浩史会長兼社長が支援した。臨床試験の結果を待たずに特例で製造販売の承認が得られる「条件付き早期承認制度」を使って世界に先駆け日本で医療保険対象になった。米国では未承認だが2023年春時点で40都道府県の100以上の病院で受けられる。

(先端医療エディター
高田倫志)